

one of them 3

続日々の雑記帳 No.23 2005. 10. 17 by yoshiki

勉強がわかっていないや……

「子どもって、勉強がわかってきたり、できるよになつてくると落ちていくくれるのよな気がします。」

職員会議の「子どもを語る」でN先生が言われた言葉です。当たり前前とも言えは当たり前前かもしれないけれど、教師の仕事ってそのことに尽きる、と深く共感しながら聴きました。

先日の人事訪問で人事主事も言っていました。学校が荒れているとき、生徒指導一本で対応しているところは必ず、教師がつぶれていきます。」

五年のO君。聞くに堪えない暴言、粗暴な行為を教師や級友につける日々が続いてい

ます。「でも、あんなにむちゃくちゃやってるのに、放課後の勉強にはきちんと来るんですよ。」

と少徳先生。珠久先生が担任していたときも、「怒ってても、勉強教えてな。」

とO君が言ったのとこの。暴言の裏に、「自分もみんなと同じように勉強ができるようになりたい。分かりたい」という切実な思いがあるのですね。

五年二組のT君。先週から算数の少人数授業を始めました。「学習に参加してくるだろうか？」という危うさを感じつつ始めたのですが、意外に素直に取り組み、二時間目など、休み時間になっても「まだ次の時間まで少

しあるし、プリントやるわ」というのです。仲のいいH君が「がんばれよ」と隣で声をかけてくれることも大きな励みになっていました。

そんな姿を見るにつけ、N先生の言葉の正しさを思うのです。

ただ、教師の側の限界もあります。放課後の指導でO君を引き上げることができると分かっているとしても、その時間確保ができないと悩むS先生。応援すると言ってもすでに200%の仕事を抱えているK先生はじめ、みんなめいっばいで応援の余力はほとんどありません。

戦争中の標語に「足らぬ、足らぬは、工夫が足らぬ」というのがありました。この先どんな工夫ができるのか……。先生方のよい知恵があったら教えてください。

くいなあ!



陸上記録会のあった日の昼休み。ふと窓からのぞいたら、2の1の子どもたちが「だるまさんがころんだ」遊びをしていました。学級のみんながほとんどに仲良く楽しそうに遊んでいるのです。「いいなあ!」と見ているこっちまでうれしくなり、デジカメに撮りました。

最近、こういう景色を見ることが少なくなりました。でも、勉強の一方で、こんなふうに見ながら遊びたい時間から遊び戯れる時間もすぐく大事だなんて思います。それに、こういう遊び方ができる学級って絶対悪くならないとも思いません。